



第 36 回 例 会 報 告 (4月26日)

【 出 席 報 告 】

・会員数	48名	・出席数	32名	・欠席数	16名
・当日出席率	66.67%	・前々回修正出席率	97.83%		

<欠席会員>平田、近藤、久米、桑森、松木(久)、村上(修)、村上(裕)、尾越、坂本、田中、渡邊、八木(伸)、山本、矢野
 [免除会員] 青野(明)、檜垣(巧)

<4/12 欠席補填>(4/2 今治北)原、冠 (4/3 今治南)別府、檜垣(俊)、小堀、久米、桑森、眞鍋、村上(裕)、重松、辰巳

◆**会長報告**・お忙しい中、会員並びにご家族の方も一部お集まりくださり、ありがとうございます。今年の音楽例会は例年とは趣向を変えて三味線と琴や尺八など、和楽器の演奏をお聴きいただきます。いつものことながら松木会員、伊予銀行今治支店さま、別府会員、お世話になります。

◆**幹事報告**・5月3日(木)は祝日のため休会です。次回例会は5月10日(木)です。

音楽例会

◆**松木徹夫会員**：藤秋会加藤流三弦道「愛媛訓晃(さとあき)会」の皆さんが練習されている大西公民館のエレベーターを降りると、辺りに響き渡る音に圧倒されました。生で聴く三味線はきっと胸がざわざわするはず。それぐらいの迫力、そして三味線・琴・太鼓と一人何役もこなす、工夫を凝らした演奏をお楽しみください。



◆秋田に本部を置く藤秋会は全国に500名あまりの会員数を誇り、津軽三味線合奏コンクールを全制覇、日本武道館をはじめとして数々の大舞台を経験されています。司会をされた藤井友子さんと大師範の加藤訓晃さんによると三味線は1500年ぐらい前に中国から琉球を経由して伝わりました。長唄に使う小ぶりの細棹、民謡や小唄、義太夫用の中竿、浪曲や浄瑠璃などに使われ、津軽三味線に代表される太棹と、竿の太さで3種類に分けられます。表皮(おもてがわ)に使われているのは細棹は猫、太棹は犬の皮。高価な演奏会用のものは糸巻きは象牙、撥(ばち)はべっ甲製になり、太棹で180~200万円もするのだそう。途中で糸が切れるアクシデントこそありましたが、間近で聴く演奏は確かに迫力があって心に響き渡りました。ちなみに演奏されたのは津軽三味線合奏曲「絃奏津軽」、秋田県の民謡を3曲メドレーで送る「JURAKU」、琴と三味線のコラボレーションで岐阜県民謡の「郡上節」と宮崎県民謡の「ひえつき節」、津軽民謡の「津軽あいや節」、津軽三味線合奏の「津軽の響き」、そしてアンコールで「南部俵積み唄」の6曲。心洗われる音楽例会でした。

<ゲスト> 藤秋会加藤流三弦道「愛媛訓晃(さとあき)会」の皆様 7名

次 回 例 会 (5月10日)

【 新 会 員 卓 話 】

<会員誕生日祝>	岡田 昌平氏 (5/14)	檜垣 巧氏 (5/16)	西信 正男氏 (5/21)
<配偶者誕生日祝>	松木 徹夫氏 (5/23)		
<結婚記念日祝>	尾越 優氏 (5/10)	西本 信保氏 (5/14)	
<入会記念日祝>	田中 良史氏 (5/22)		

[国際ホテル]